

場面1

仕事も子育ても
女性も男性も



「家事は分担してやろう。」
「私は料理をするわ。」
「私は洗濯を担当しよう。
子供達はお手伝いを
しようね。」

場面2

みんなで計画し、
みんなで決める



「今度の休日に、キャンプ
をしようか。」
「それはいいね。子供達に
も何がしたいか聞いてみ
よう。」

場面3

お互いに暴力は
ふるわない



「お互いを尊重しつつも、
仲良くして、けんかしま
ないようにしよう。」
「そうね。そんな私達を
子供にみせたいわ。」
「言葉づかいにも、お互い
が気を付けていこう。」

場面4

「自分らしさ」で
職業選択



「ぼく(私)は将来、看護師
として働いてみたいんだ。」
「私(ぼく)は、化学につい
てもっと勉強してみたい
な。将来は研究者になりたい。」

お互いを尊重し合える 男女平等の関係を築こう！

わが家の男女平等について話し合い、取り組んでみましょう

男女共同参画社会の実現をめざし、社会的・文化的に形成された男女の固定的な役割分担意識にとらわれず、あらゆる分野の活動に男女ともに参画できる男女共同参画の視点に立って、一人一人の子供の個性や能力を伸ばすことが大切です。

大人に男女の固定的な役割分担意識がある場合、それが子供に影響し、先入観を生み出す原因となります。そこで、大人が男女共同参画の視点で自らの言動をふり返りながら、親子で話し合う機会が必要です。また、皆さんの「子供に期待する人間像」の中に、性別による偏りがないかを見直すことも必要です。

おもて面の「場面1」から「場面4」は、男女平等の関係を築くために、日常生活で想定される内容です。これらを活用し、「わが家の男女平等」について話し合い、取り組んでみてください。

場面1 仕事も子育ても 女性も男性も

男女が協力して育児や家事を行うことは、男女が互いに助け合い、それぞれの能力を発揮して社会に貢献し、よりよい社会を築くことにつながります。**男女が互いに仕事と子育て等をバランスよく両立できる社会の実現**に向け、ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)を見直すことが大切です。家庭においても男女の役割の固定をしていないか見直しましょう。

場面2 みんなで計画し みんなで決める

「参画」とは、例えば、地域の会議やイベントなどに「参加」するだけでなく、その**「計画や決定の段階から関わる」**ことを意味します。家庭内では、**お互いに対等な家族の一員**として意見を出し合うことが大切です。そこで、「高額商品を買うとき」「子供の進学や就職」の場合など、特定の人の意見だけで決定するのではなく、家族全員が参画して決定するようにしましょう。

場面3 お互いに暴力は ふるわない

DV(ドメスティック・バイオレンス…「配偶者等からの暴力」)は、**女性の人権や生命を脅かす緊急の課題**となっています。テレビの恋愛ドラマなどで、異性に強引に交際を迫るなど、実際はDVに該当すると思われる描写を話題に、親子で話し合ってみましょう。暴力を容認しがちな社会風潮、女性を男性より低く見る意識、男女の固定的な役割分担意識等は**DVやデートDV(交際相手に対する暴力)につながり、男女共同参画社会の実現への妨げ**となります。

場面4 「自分らしさ」で職業選択

男女の固定的な役割分担意識の一つに、**保護者が考える子供の職業観**があります。しかし、**職業は性別によって区別されるものではありません**。男女雇用機会均等法では、募集や採用、配置や昇進等において男女差をつけることが禁止されています。それを受けて、現在、「保育士」「看護師」「客室乗務員」などの呼称が使用されています。性別に関係なく一人一人の興味や関心で職業を選択していきましょう。